

令和6年度「ダンボールコンポスト・メイト」懇話会

1. 日 時 令和6年11月1日(金) 14:00～15:30
2. 場 所 函館市中央図書館 2階大研修室
3. 出席者
 - (1) ダンボールコンポスト・メイト 19名
 - (2) 講師兼アドバイザー
はこだて魚の会 柿崎 陽子
 - (3) 函館市環境部環境推進課 4名
4. 要 旨
 - (1) 函館市からの説明(配布資料に沿って説明)
 - ・生ごみの減量対策
 - ・令和6年度 ダンボールコンポスト・メイトの生ごみ投入量(10月現在)
 - (2) ダンボールコンポスト・メイトさんからの感想
 - ・生ごみの投入量について
提供してもらったダンボール箱でどのくらいの生ごみが処理できますか。
 - ・良かったこと
作った堆肥を使ったら野菜がとても甘くて良くできた。
ジャガイモがとても美味しくできた。
作物の発育が良かった。
白菜が立派に育った。
 - ・困ったこと
温度が上がらなかった。
コバエが発生した。
嫌な臭いが発生した。
 - ・その他
ダンボール箱の中全体に粘りがでてきた。
魚は生で入れても良いのか。
温度はどのくらいに保つと良いのか。
加工品やお菓子をを入れても良いのか。
水分量は堆肥を握ったとき手に水分を感じる位で良いのか。
 - (3) 柿崎講師からのアドバイス
 - ・ダンボールコンポストには20ℓの基材で生ごみは4.5kgから5.0kgまで入れられます。生ごみは多く入れても構わないが翌日は投入量を少しにするなどして調整してください。
 - ・発酵分解が進んで行くと温度は上がりますが、分解が終わると温度は下がってきます。温度は常に高いままではなく上下します。

温度が上がらない時は廃油，天かす等のカロリーの高いものを入れると温度は上がります。

- 水分が多いと基材がべたついたり，虫や悪臭の原因になります。
水分量は50%から60%位が良いのですが，常に水分量を50%から60%に保つのは大変なので，ダンボールの中が乾燥しているなど思った時には，生ごみの水分をしぼらないで投入したり，水を加えたりして調整してください。
水分量は強く握りしめたとき手に水分を感じる程度が望ましいです。
また，水分量が多いときはピートモス等を入れて様子を見てください。
- コバエが発生した時は廃油，天ぷらカス等のカロリーの高いものを入れて温度を上げしっかりかき混ぜてください。
高温になるとコバエは死滅します。
- 嫌な臭いが発生した時もカロリーの高いものを投入し温度を上げて，しっかりかき混ぜてください。みかんの皮を入れると臭いが和らぎます。
- ダンボール箱全体に粘りがでてきたのは水分量が多いのが原因だと思います。
基材のピートモスを入れ様子を見てもらい，それでもべたついている場合はピートモスを追加してください。
- 魚や魚の内臓は入れても良いです。
魚は発酵分解される時にアンモニア臭が発生しますので，一度にたくさん入れないようにしましょう。
投入後はしっかりと基材をかぶせてください。
翌日生ごみを入れる場合は魚を入れた場所とは別の箇所に穴を掘り生ごみを入れ基材をかぶせてください。
- 温度については，15℃以上あるとゆっくりと生ごみが分解していきます。
これから寒くなるので暖かい場所に置いて続けてください。
- 加工品やお菓子を投入しても良いですが，できれば残さず食べていただきたいです。食べられるものはできるだけ食べていただき，食べられないものだけダンボールコンポストに入れてください。
- 水分量の目安は強く握ったときに手に水分を感じる位が良いです。
- 堆肥づくりは無理をせず，楽しみながら行って欲しいです。
長く堆肥づくりをしているとコツがわかってきますので，継続してやっていただきたいと思います。

5. 懇話会の様子

懇話会の開催の挨拶後会が進められました。



ダンボールコンポスト・メイトさんからの堆肥づくりの経験談が話し合われ、困ったこと等のアドバイスを柿崎講師からいただきました。

